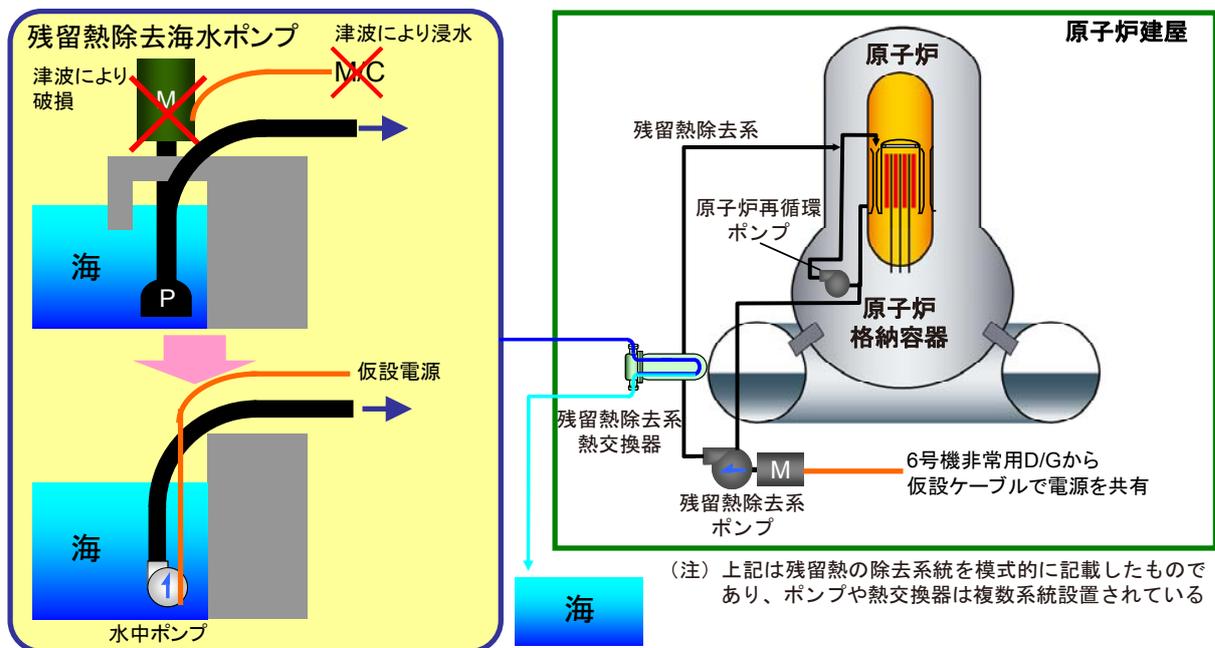


- これを受けて、発電所では、前日まで1～4号機への事故対応支援を行っていた要員を呼び戻し、5、6号機対応の体制を整えた上で復旧策の詳細検討、設備調査、準備作業及び各種調整を開始した。
- 準備作業として、3月16日より仮設の残留熱除去海水系ポンプ（水中ポンプ）設置に関わるエリア調査を兼ねての瓦礫撤去、工事用道路の整地を開始した。
- 3月17日夕方までには、高圧電源車から屋外ポンプ操作盤（仮設）までの仮設電源ケーブル敷設及び5号機の仮設水中ポンプの設置が完了した。その後、3月18日12時頃までに仮設水中ポンプへの電源接続を行い、3月19日1時55分に起動した。
- 一方、3月17日から18日にかけて発電所対策本部復旧班で実施した点検の結果、6号機D/G 6Aが起動可能であることが確認されたことから、復旧対象として選定した残留熱除去系ポンプ（C）への電源供給は、D/G 6Aから6号機高圧電源盤（M/C-6C）を経由し、仮設電源ケーブルを用いて直接電源を供給することとした。仮設電源ケーブル敷設は3月18日14時頃から19日早朝にかけて実施した。
- 3月19日5時頃、残留熱除去系ポンプ（C）を手動起動し、非常時熱負荷モードで使用済燃料プールの冷却を開始した。



<原子炉の冷温停止>

- 3月20日10時49分、非常時熱負荷モードで使用済燃料プールの冷却をしていた残留熱除去系ポンプ（C）を手動停止し、同日12時25分、停止時冷却モードで残留熱除去系ポンプ（C）を再度起動し、原子炉冷却を開始した。同日14時30分に原子炉水温が100℃未満となり、原子炉冷温停止となった。
- 以降、残留熱除去系により原子炉と使用済燃料プールの冷却を交互に実施していたが、海水系ポンプの復旧により使用済燃料プールの除熱機能が確保できたことから、6月24日16時35分に燃料プール冷却浄化系ポンプを起動、燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの冷却を開始し、残留熱除去系は原子炉冷却とした。